

**琉球弧世界遺産学会地域学習会in首里金城町2026**  
～ 住民参画による世界文化遺産、首里城バッファークーンの保存活用について考える ～

**開催要項**

- ◆ 日時 2026年7月12日(日) 9:00～12:00
- ◆ 会場 学習会：首里金城村屋(かなぐしくむらや一)、那覇市首里金城町2丁目7番地  
巡見：首里金城町に所在する歴史・文化・自然遺産と潜在的遺産
- ◆ 主催 琉球弧世界遺産学会(通称：琉球弧世界遺産フォーラム)
- ◆ 共催 首里金城町自治会
- ◆ 支援 沖縄美ら島JCBカード
- ◆ 参加対象 金城町住民及び主催団体招待者
- ◆ 参加費 無料(ただし、傷害保険金1人50円程度)
- ◆ 集合場所・時間 首里金城村屋・9:00
- ◆ プログラム
  - 趣旨説明(10分)
  - 金城町の地域遺産巡り(9:10～10:40)  
巡見：村屋、大樋川、華茶園、真珠道(石畳道)、首里金城の大アカギほか  
講師：當眞 嗣一(グスク研究所主宰/琉球弧世界遺産学会理事)
  - 休憩(20分)
  - 学習会(30分)  
話題1「首里金城町がめざすまちづくり」  
玉那覇 元(首里金城町自治会長)  
話題2「コミュニティが担う世界遺産や地域遺産の保存活用」  
花井 正光(前琉球弧世界遺産学会代表)
  - 質疑応答(30分)  
司会：濱口 寿夫(中城村護佐丸歴史資料図書館館長/琉球弧世界遺産学会代表)

**趣旨**

首里城をいただく城郭都市の一面にあって歴史都市の面影が今に遺る金城(かなぐしく)にも、コミュニティの運営に多難な社会問題が波及しつつある。多彩な地域遺産を抱えながら、これらの将来世代への継承を担う態勢整備が喫緊の課題として浮上してきたと聞く。そんな事態のもと、住民の手で歴史都市に相応しい誇れるまちづくりを模索し、行動することの必要性に気づいた人たちがいる。他所のベストプラクティスから学び、行政担当者や研究者とともに「地域遺産」を活かした持続可能なまちづくりに挑戦するコミュニティの取り組みを支援する試みの機会になればと、この学習会を企画しました。

問合せ先：

琉球弧世界遺産学会事務局(担当：濱口・花井)

電話 濱口：090-9477-2301

電話 花井：090-8454-5930